

# 家庭と幼稚園

—(教育上の協力者たる實を擧がよ)—

いろ／＼の意味に於て、幼稚園から家庭へ希望もし、勧誘もしたいことが澤山ある。其中主なることを二三述べて見度い。

(一)幼稚園の教育は家庭の教育との協力事業であるといふことを忘れない様にして貰ひ度い。世間には其子供を幼稚園へ通はせるようになれば、其の子の教育一切を幼稚園でして呉れるかの様に考へて居る家庭が無いでもない様である。それも幼稚園の教育力を非常に大きく見積つて居らるゝ者であるとも考へれば考へられる。けれどもそれでは家庭の教育力を自ら餘り小さく見て居られると言ふことにもなる。殊に屢々耳にすることであるが、我家の子は幼稚園へ入れてあるのにちつともよくならない、といふ類の訴へは、當然二人で

償ふべき責任を、自分の分は柵へ上げて對手ばかりを責めるといふ形がある。勿論幼稚園の方では、其の全責任を獨りで償ふ位の覺悟は有して居る。家庭の方からさういふ訴へを聞くことは、寧ろ良薬として甘受し、また或る程度まで深く恐縮するのである。決して、それを不快として返し言をいふのではない。しかし、それでは其の子供の爲に却つてよくないと思ふのである。殊に、こんな小言を幼稚園へ訴へる家庭の中には、幼稚園で折角苦心して與へて居る教育を、一日々々と家庭の方で破つてゆく様なのが事實上少くないのである。若しそんなことがあるならば、底なし釣瓶で水を汲むと同じである。幼稚園の努力の無駄になるのも惜しい至りであると共に、子供こそ一番の損を

受けるのである。元來子供を幼稚園へ入れるのは、家庭が教育的に無能力なからではない、家庭は家庭として、その充分の教育力を發揮して居る上に尙ほ幼稚園の協力を得ようといふにある。私共では何も出来ません故、何分よろしくお任せするといふのは、一通りの世間挨拶としてなら兎に角、事實さういふ心持ならば飛んだ誤りである。學校とか幼稚園とかを、信賴するといふことは最も大切なことであるけれども、たより過ぎるといふことは當今の家庭の通弊であるかも知れない。而して學校や家庭の教育が充分効果を發揮し得ない大きな理由の一つであるかも知れない。

(二)幼稚園にたより過ぎ、任せ過ぎてはいけな  
いといふのは、幼稚園の教育力を疑ひ侮つてよいといふことゝは大に違ふ。然るに、事實上、此の二つが奇怪な矛盾をなして居ることが尠くない。幼稚園にまかせ過ぎて居ながら、幼稚園を尊敬して居ないといふやうのことがそれである。何たる

甚しい矛盾なのであらう。何たる我まゝ勝手のことなのであらう。かういふ有様では愈々子供の教育は擧がらない。のみならず却つて害せられてゆく。

親達に幼稚園を尊重する心がなくて、何で子供の心に幼稚園を尊重せしめ得よう、幼稚園の不完全、保母の缺點などを子供の前で口外する如き心なしは論外であるが、大切な我子の教育の協力者として之れを心の底から尊敬するのでなくては駄目である。言ふまでもないことであるが、幼稚園は家庭の命を奉じて子供のお相手をして居る處ではない。保母の社會的位置は、素人目に高いものではない。中には随分若い保母もある。しかし、我子の教育を托するに足りないと思ふのなら、始めから頼まない方がよいではないか。勿論社會的一般の問題としては、充分に尊敬を値せられない責が、或部分教育者の方にあると見なければならぬ。ないこともあるかもしれない。しかし、『我子の先

生』といふ關係は絶對の關係である。少くも我子にとつては絶對の關係である。結びつけるなら正當に結びつけなければならぬ。然らずんば早く關係を絶つた方がよい。

要するに、家庭は我子の教育の協力者たる幼稚園に對して全幅の敬意を有せなければならぬ。

(三)協力者であるからには、たゞ分擔して居るといふ丈ではない。すなはち兩方から互に注文が出なければならぬ。相談せられなければならぬ。さうして其の相談の結果が充分實行せられなければならない。

幼稚園の方でする所謂保護者會は、此の最もよい機會であるが、それが充分利用せられて居ない。第一、眞に相談甲斐のあるお母さんの出席が少ない。出席しても何一つしみぐとした相談をしない。擔任保母に遇つてお禮を言つて歸る位のことが多い。幼稚園はお禮を言つて貰ふ爲に會を開くのではない。聞いて貰ひ度いこと、聞かせて貰ひ

度いことが澤山あるからである。但し今日の保護者會が充分に其の効果を發揮し得ないのは、會のしかたの悪いといふこともある。第一、全園の保護者を一度に多勢招くといふのもよろしくない。

之れは是非幾度かに分けて、保母がゆつくり話の出来る程度にしなければならぬ。第二、幼児の保育状態を見せるといふことは、種々の方面から利益のあることではある。しかし、それが保護者會の主なる目的になつてはいけない。保育もいろいろ見せ度い。話も澤山したい。それで半日たかぐといふのでは餘り忙し過ぎる。

兎に角く、保護者會はもつとよく利用せられて協力者の會合といふ意義が發揮せられなければならない。しかし必ずしも年幾回の保護者會のみが相談の唯一の機會ではない。家庭の母は、何故も少し幼稚園を訪問しないのであらう。世には保母の方から訪問して來る筈だなど、考へて居る家庭もあるかも知れないが、大いなる心得違ひであ

る。協力者とは言ひ條、どこ迄も家庭の方が主任者である。子といふ關係からいつても勿論のこと、保母は一人で多勢の子保を引受けて居るといふ點から言つても、母の方から幼稚園を訪ふのが當然である。

(四)幼稚園の方から注意せられて、やつと家庭の方で氣がつくといふ様なことが、先づ以て前後轉倒の至りである。況んや幼稚園からの注意が家庭に於て充分遵法實行せられないといふ様のことがあつたら、たゞ／＼意外千萬のこと、言ふのではない。

朝何時には出園させて下さい。大した理由もなく遅刻したり早過ぎたりする。何時に迎えに来て下さい。いつも／＼其の迎えが遅れる。手拭を持たせて下さい。それが又しても忘れられる。辨當は船パンはいけますまい。相變らずパン屋の袋を其のまゝ持つて来る。随分世話の焼ける話である。といふよりも、何故斯く我子の教育に意を用ゐな

いのか理解せられない話である。

(五)幼稚園で如何なる教育をして居るのか、その大體位は家庭でも心得て居なければならぬ。幼稚園では辨當の後には必ずうがいさせるとする。之は幼稚園に来て居る時だけすればよいのではない。全體の習慣にし度いと考へて居るのである。處が家庭では頓と之れを實行させない。幼稚園で骨を折つて斯ういふ習慣を養ひつゝあるといふことを熟知して居ながらしない。三度の食事に一回だけ幼稚園でうがいして、朝と夕と二回はしない。之れで何の習慣がつこうか、數から言つても差引勘定明瞭な話である。之れは一例であるが何事も同様である。而して、何か新しいことを始めて、習慣を養ひ度いと思ふ様の時には、幼稚園の方からも必ず家庭へ通知して置くべき筈である。家庭では通知せられたら必ず實行すべきである。是に始めて協力になる。幼稚園と家庭と子供が二様の違つたことをして居るやうのことで、何

の教育が出来ようものぞ。

又幼稚園で唱はせる唱歌などにしても歌詞位は印刷して家庭に通じて置き度い。實は家庭の方で聞きゝに來て然るべきであるが、多勢のことであるから幼稚園から頼つた方が便利であらう。そして、子供が家庭へ歸つて其の歌を唱ふ時、思ひ掛けない歌詞の間違ひがあることがある。一寸訂正

## 感 官 の 練 習

### 一、その意味

心理學者の云ふ所では、昔から云つてゐる眼鼻耳口皮膚の五官どころではなく、壓温冷痛運動等を感じする機関が、十も十餘も吾人の身體に具つてゐるとの事である。その一々に就ては別に茲に述べないが、すべて感官は吾々が外部の世界と直

してやつて欲しいものである。之れは前に述べた習慣養成に比べれば小さいことであるが、之れも協力者たる當然の用意である。其の他數へてゆけば、あの事にも此の事にも、もう少し家庭と幼稚園とが協力者らしく其の實を舉げて欲しいものである。

文學士 大 槻 快 尊

接交通する、第一の門戸である。外界の作用を受け入れて、心の一部分とする際の入口は、この感官であつて、世界に關する知識を得る唯一の入口である。若しこの入口の一つでも閉ざされると、それだけその世界が知れなくなるのである。この門戸が悉く閉鎖せられて居たならば、人間は骨と肉とで作られた、蠟細工の人形のやうなもので、世間